

◆ 今週のコメント

- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は、第52週が13.49(917例)、第53週が7.34(499例)で、第47週以降減少しています。第53週(12月28日～1月3日)は年末年始の連休を含むため、報告数が減少している可能性があります。年齢群別では、第52週は「5～9歳」(24.0%)が最も多く、「0～4歳」(22.4%)、「20～29歳」(16.5%)の順で、第53週は「20～29歳」(34.9%)、「30～39歳」(17.9%)、「5～9歳」(11.2%)に多くなっており、第53週では、20歳以上が大半(67.3%)を占めています。
第52週及び第53週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した22例のうち、15例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(7例は陰性)。
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症(O121 VT2)**の報告が1例(男, 4歳)あり、溶血性尿毒症症候群(HUS)発症者です。本年の累積報告数は93例で、そのうち、HUS発症者は3例となっています。
- ・ **RSウイルス感染症**の報告が第52週に22例、第53週に18例あり、第46週以降、連続して報告があります。第51週以降、過去5年平均値を顕著に上回っています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の第52週及び第53週の定点当たり報告数は、8.32及び4.49で、第48週から第52週まで増加傾向となっています。第53週の報告数の減少は、年末年始の連休が影響している可能性があります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 3例(肺結核 3例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)
【平成21年1月以降の累積報告数 377例(肺結核 246例, 肺外結核 87例, 無症状病原体保有者 44例), (喀痰塗抹陽性 116例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O121 VT2) (第53週)1例【平成21年1月以降の累積報告数 93例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	第53週		第52週	
		定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	7.34	499	13.49	917
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.49	184	8.32	341
	② RSウイルス感染症	0.44	18	0.54	22
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	13	0.66	27
	④ 流行性耳下腺炎	0.29	12	0.46	19
	⑤ 水痘	0.27	11	1.10	45
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1	0.20	2

病原体情報

ありません。

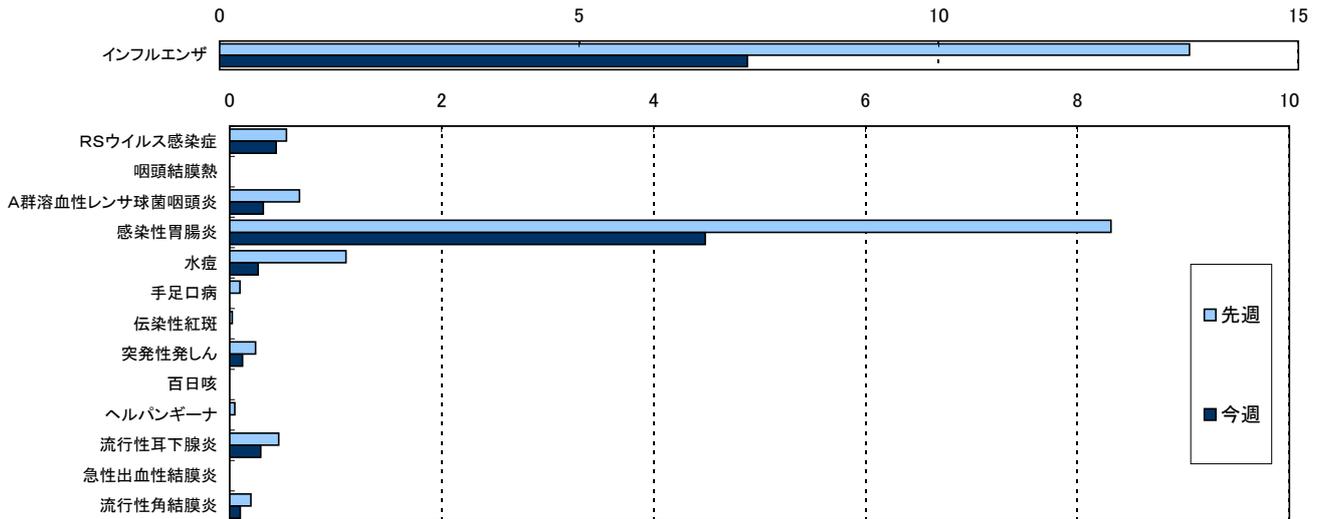
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成22年1月8日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

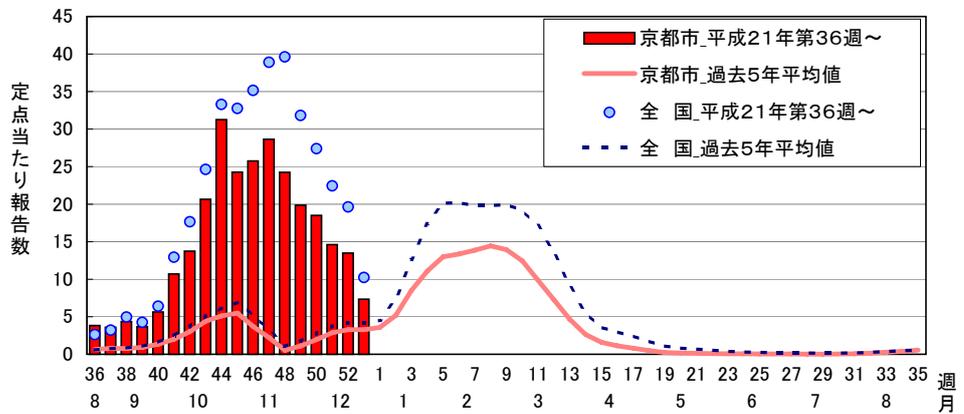
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第53週)と先週(第52週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

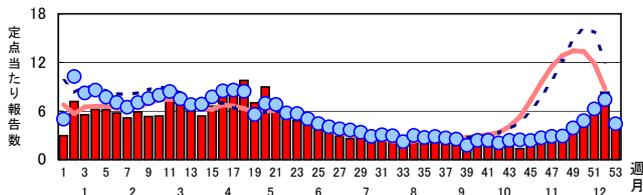
週	報告数(例)
第49週	1350
第50週	1258
第51週	993
第52週	917
第53週	499
累積報告数 (第36週以降)	18640



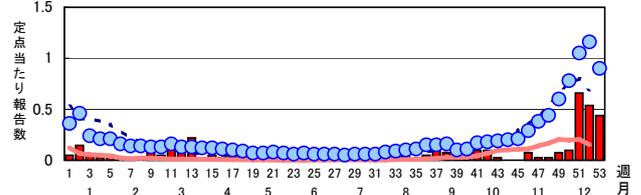
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

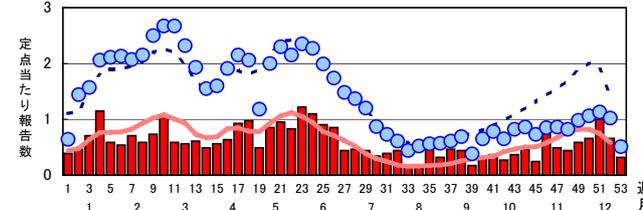
1 感染性胃腸炎



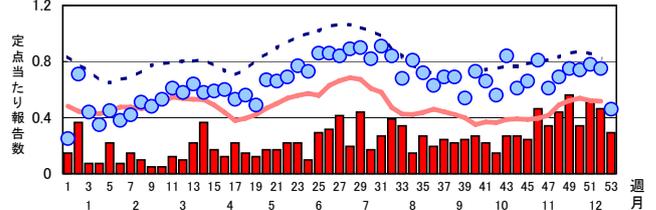
2 RSウイルス感染症



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

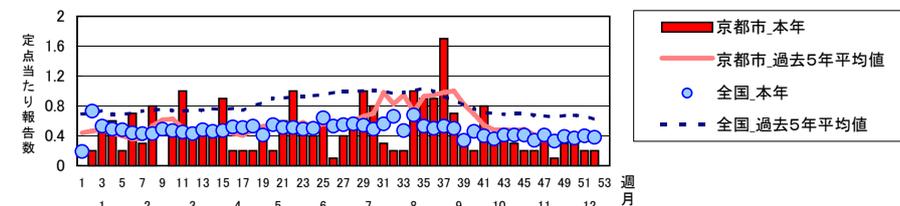


4 流行性耳下腺炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



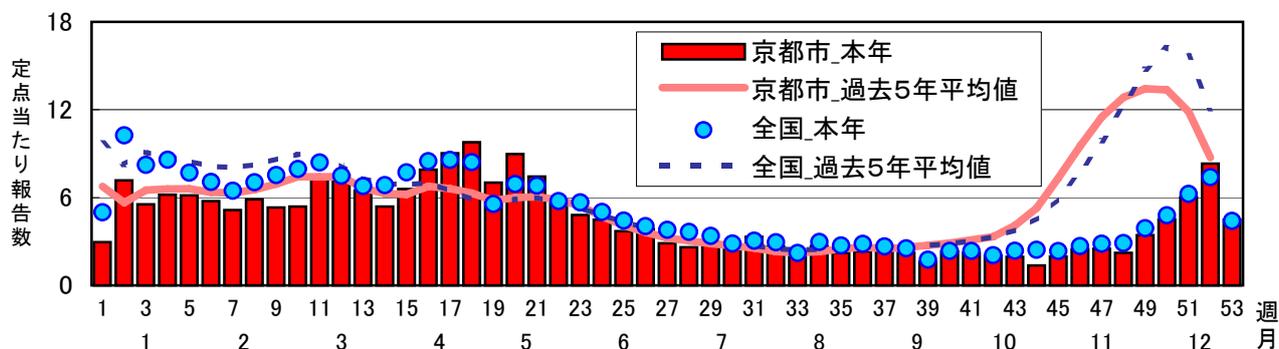
合併号(12月21日～1月3日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の第52週及び第53週の定点当たり報告数は、8.32及び4.49で、第48週から第52週まで増加傾向となっています。第53週の報告数の減少は、年末年始の連休が影響している可能性があります。

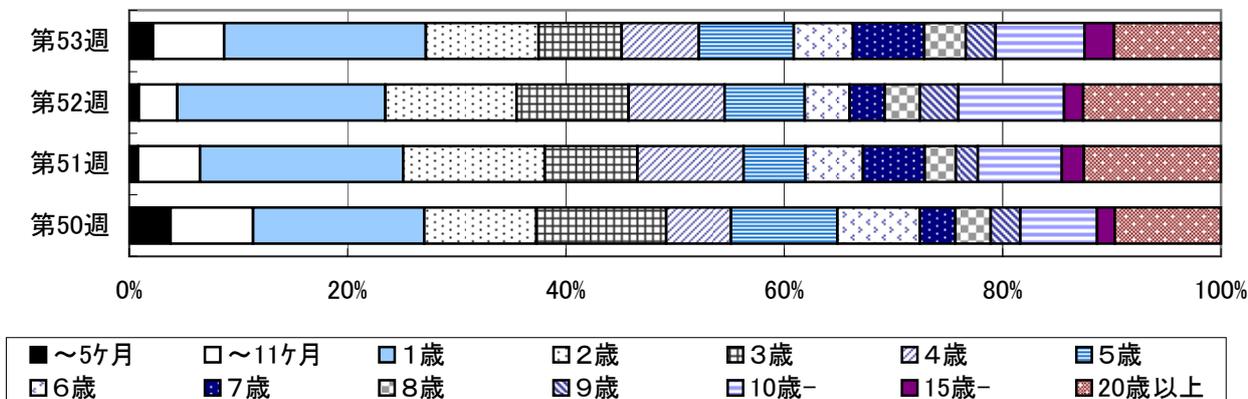
年齢階級別構成割合は、第52週、第53週ともに、1歳が最も多く、5歳以下が約60%を占めています。

行政区別定点当たり報告数をみると、第52週は、11行政区中9行政区で、第51週に比べ増加しており、第53週においても、北区、中京区、東山区の3行政区では第52週に比べ増加しています。

本市及び全国の報告数 推移



年齢階級別構成割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

